

第5学年2組 総合的な学習の時間指導案

日 時 6月27日(金)13:25~14:10
場 所 5年2組教室
授業者 遠藤 学

1 単元名 創ってつながる！ゆず物語 in 信夫山

2 単元の目標

ゆずについて調べたり、ゆず作りに協働して取り組んだりすることを通して、ゆずを生産する人々の思いや苦労について理解し、自分たちにできることを考えるとともに、福島市でゆず作りやゆづを使った地域おこしを支える一人という意識をもって生活したり行動したりすることができるようになる。

3 指導にあたって

(1) 児童について

4年時に身近な樹木や野鳥に関心をもち、とことんこだわりをもって学習対象を追究してきたことで、課題に合わせた情報収集力や計画実行力などが付いてきた。また、繰り返し関わってきたことで、自然の事象や物事に対しての興味・関心が非常に高く、本教材にも関係する樹木や野鳥の名称や特徴などの知識は豊富にある。一方で、自分たちで課題を設定する力や進んで社会に参画していく力は課題であり、本単元を含む教科等横断的な学びで、実社会の様々な場面で活用することのできる汎用的な力にしていきたい。

今年度の総合開きでは、「みんなと協力してたくさん考えたい」「4年生の学習を生かして、レベルアップした総合にしたい」など、前向きに友達とかかわり合いながら楽しく学習していきたいという姿が見られた。ゆずの認知度は、名前としては高いものの、香りや味などの実感を伴った認識は浅いのが現状である。実際にゆずを食べたことがある子どもは、ゆずの香りや味、形などの大まかな情報はあるものの、食べたことのない子どもはその情報もほとんどない状態である。ゆずを食べた経験がある子どもの中でも、独特の香りや酸味と苦味が混在する味がするため、苦手意識をもっている子どもも少なくない。また、信夫山で栽培されているゆずについては、信夫山にゆずがあるということは知っているが、どの場所にあるか分からぬ子どもが多い。

(2) 教材について

本教材では、信夫山のゆずと、それを育てる曳地清明さんに関わっていく。かつて信夫山のゆずは、地元福島市で人気の特産品であった。しかし、2011年に発生した東日本大震災に伴う原発事故の影響で11年もの間出荷が制限されてしまった。震災前に10軒あった柚子農家は現在2軒まで減り、出荷が再開されて2年が経つものの、規格外品となり市場に出回らないゆずも多い。そんな信夫山のゆずについて、年間を通して生長過程を観察し、実際に曳地さんの畑でゆず作りに携わることで、農家の方の思いや苦労に気付いたり、畑で作られる恵みを実感したりすることができると思う。また、ゆず作りを通して、これまでのゆずやゆず作りに対する認識が大きく変わり、自分の考えが深まり、学習を深めていくことが期待できる教材である。そして、単元後半では、福島市でごくわずかな農家の方が育てているゆずを手に取ってほしいという思いをもち、自分たちで開発したオリジナルゆず〇〇で信夫山のゆずの魅力を広める活動につながると考える。

(3) 指導について

第一小単元では、信夫山でゆずを育てている曳地さんと出会い、ゆず畑を見学したり話を伺つたりしたことで、初めて知る事実に驚き、ゆずのことをまだ知らない自分を自覚する子どもたちの姿があった。子どもたちは、ゆずに詳しくなるために調べる活動を行い、調べても分からないことやゆづに対する思いなどについては、曳地さんに直接聞いて疑問を解決してきた。本時は、その曳地さんの話を聞いて初めて知ったゆず作りにおける苦労や困難など、背景にある負の部分に気付き、ゆず作りの課題を整理し、今後自分たちができることについて考えていく。自分たちが収集した情報、曳地さんから聞いた話に基づき、ピラミッドチャートを用いることで、それぞれの思いや考えを表出させ、考えを焦点化したり構造化したりすることができるようにしていきたい。ここでは、ピラミッドチャートにある課題を解決するために何をすればよいかを考えることで、自分たちができる事を明らかにし、マトリックス表を使って視点ごとに情報を整理することができるようにならうとしている。

第二小単元では、信夫山のゆずを生かした実用的な日用品を作っていく。その製作が、傷やへこみのない厳選された外見のよいものしか市場に出回らない信夫山のゆずの有効活用となっていくため、子どもたちの思いや考えを大切にしながら、実現可能で効果的なものとなるようにしていきたい。また、製作したものを実際に使ってもらうことで、ゆず作りにおける成果と課題を出し合い、その課題から改善点を見いだし、よりよいものを創り上げていくことができるようにならうとしている。さらに、曳地さんの思いを理解しているからこそ、信夫山のゆずを地域の人へ伝えたい、広めたいという思いへつなげ、自ら地域社会へ参画する子どもを育んでいきたい。

第三小単元では、子どもたちが栽培に関わってきたゆuzuをこの2年間「ゆuzu復活プロジェクト」の一員として活動している東稜高校生と共に収穫し、そのゆuzuを使って、専門家の助言を受けながらオリジナル○○の製作をさらに進めていく。その製作物を三小生や保護者、地域の方に実際に使ってもらうことで、信夫山のゆuzuのよさを生かすことができているのか、実用的な面から見てどうなのかななどの視点で、自分たちの学習の成果を評価する。そして、改善を重ねることで、子どもの思いがつまつたよりよいものを創ることができるようにしたい。単元を通して、曳地さんの取組や思いに触れながら、信夫山のゆuzuの魅力は何なのかを考え、信夫山地区のこれからを担う自分たちが地域のためにできることをしようとする態度を育てていきたい。

4 単元の評価規準（総時数70時間）

(1) 単元の評価規準

小単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>① 信夫山のゆuzuには、それを生産する人々の思いや苦労のおかげであることや自分の生活と関わりがあることを、これまでの経験や既存の知識と関連付けながら理解している。</p> <p>② 既存の知識及び技能を活用し、自分の生活と信夫山のゆuzuについて調査する活動を目的や対象に応じて適切に実施している。</p> <p>③ 信夫山のゆuzuについての理解は、自分の生活と地域おこしを支える関係を探究的に学んだ成果であることに気付いている。</p>	<p>① 自分の生活と信夫山のゆuzuとの関わりについて、問題状況から解決可能な課題を見いだし、その解決の方法や手順などの見通しをもっている。</p> <p>② 信夫山のゆuzuについて必要な情報を収集する手順を考え、収集した情報を分類し蓄積している。</p> <p>③ ゆuzu作りやオリジナルゆuzu○○作りに向けて、自分たちの活動の改善点を見いだし、自分らしい解を創り上げている。</p> <p>④ ゆuzuやゆuzuを使った地域おこしについて、自らの考えを相手や目的に応じて効果的に表現している。</p>	<p>① 信夫山のゆuzuについて、自ら問い合わせをして、探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>② ゆuzu作りや柚子を使った地域おこしに向けた探究活動を通して、自他の考え方のよさを生かしながら、共に学び合おうとしている。</p> <p>③ ゆuzu作りや地域おこしに向けて、友達の発見や考え方のよさを見付け、自分の生活の中で自分にできることに取り組もうとしている。</p>

(2) 指導と評価の計画

小単元(時数)	学習活動(時間)	知	思	態
信夫山のゆずでどんなことができるかな (18)	<ul style="list-style-type: none"> 今年の総合で目指したい姿について話し合う。 (1) 信夫山のゆずでどんな活動ができそうか話し合い、実際にゆずを見たり、農家の話を聞いたりして、今後の見通しをもつ。(ゆず農家 曜地清明さん) 信夫山のゆずについて知りたいことを出し合い、調べる。 (6) 農家のこれまでの苦労した話を聞き、信夫山のゆづについての課題を考える。 (本時4/6) 	②	① ② ②	②
使って効果を抜群に發揮！オリジナル○○を開発しよう！ (22)	<ul style="list-style-type: none"> 見た目や香りなどゆずの特徴がよく表れる日用品を考え、製作する。 作ったものについて、うまくいかない点について専門家の方に助言をいただく。(木村信綱さん) 専門家の助言を生かして、もう一度製作する。 実際に全校生に使ってもらい、その場の様子やアンケート調査から自分たちの願いと合っているかどうか分析する。 	① ②	① ② ③ ③	① ②
みんなの心もきれいに！信夫山産ゆづ○○！ (30)	<ul style="list-style-type: none"> これまでの製作過程における発見を共有し、実際にゆづを収穫して、オリジナルゆづ○○を製作する。(福島東稜高校生) 製作したオリジナルゆづ○○について、専門家の方に助言をいただき、それを生かして製作する。 全校生や保護者、地域の方に、製作したオリジナルゆづ○○を使ってもらう体験会を開く。 ゆづの植樹を行い、信夫山のゆづの魅力について発信する。 一年間の学びについて振り返り、自分の変容を捉える。 	①	① ③ ④ ④	① ② ③ ④

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

ゆず農家の曳地さんの思いや苦労について、実際に聞いたことを基に話し合う活動を通して、信夫山のゆず作りの課題を整理し、今後自分たちができることを考えることができるようになる。

(2) 本時の終末に予想される子どものつぶやきと本時の手立て

【予想されるつぶやき】

「ゆづの手入れで草刈りがとても大変だから、まずは草むしりをしたい。草むしりは3年生の時にも総合の時間にやったから、自分たちだけでもできるはず。」
「ゆづを収穫するのが大変だから、収穫する時はわたしたち以外に手伝いできる人を募集して、みんなで一緒にたくさんゆづを収穫できるといいんじゃないかな。」
「出荷できないゆづを使う使い道は考えられないかな。みんなでその使い道を考えて、曳地さんに提案してみるのはどうかな。曳地さんの協力が必要。」

地域人材との協働的連携

単元を通して、信夫山でゆづ農家を営む曳地清明さんと関わっていく。本時まで曳地さんから2回話を伺っている。その2回目の話では、ゆづ農家を継承することとなった理由やその過程、東日本大震災が起こったことをきっかけに一変した生活、収穫してもなかなか市場に出回ることの少ないゆづの現状などについて伺った。ここで初めて、ゆづ農家として直面した多くの苦労やつらい背景を知ることができるようにする。曳地さんの具体的な言葉から、信夫山のゆづ作りの課題を共有することで、自分たちが今後できることについて考えができるようになる。

子どもの内面の可視化

今の段階で捉えているゆづ作りに関する課題について、収集した情報に基づき、ピラミッドチャートを用いて、課題を比較しながらどの課題が曳地さんにとって深刻であるのかを考えていく。その後、それらの課題について思いや考えを伝えた後、マトリックス表を使い、自分の考えを可視化しながら思考を整理していく。マトリックス表の枠内に「すぐにできそうかどうか」「自分たちの力でできそうかどうか」という視点で整理し、自分たちができることを明らかにできるようになる。また、その「すぐにできそうかどうか」の視点からは、切実感をもって解決するための方法を考えることができると思われる。

(3) 指導過程 (第1次 16／18時間)

学習活動・内容	時間・形態	○指導上の留意点 ◆本時の重点 ※評価
1 前時を振り返り、本時のめあてをもつ。 ・ ゆず畠の現在の様子 ・ 曜地さんに聞いた話の内容	3 (一斉)	○ 曜地さんに改めて話を聞いた目的を確認することで、活動への意識を高め、本時のめあてをもつことができるようにする。 ○ 前時に信夫山のゆず作りにおける課題について、Metamoji ClassRoom 上でピラミッドチャートに整理しておくことで、友達に気になったことを聞いてみたいと行動に移せる環境をつくる。
曳地さんの話を聞いて、これから何をすればよいかな。		
2 ゆず作りの課題について、自分の思いや考えを伝え合う。 ○ ゆず農家をつぐ人がいないってことは、そもそもゆずを作る人がいなくなるということだから、何とかしないといけないと思う。 ○ 出荷できないゆずが多いから、信夫山で曳地さんが作ったゆずがあまり知られてないんだよね。 ○ 一つ一つ実をはさみで切らないといけないから、ゆずの収穫に時間がかかるんだよね。	14 (小グループ→一斉)	○ 話をしたい子ども同士で小グループを作ることで、思いや考えを進んで伝えられるようする。 ○ 子どもの様子を見取ることで、次の活動につなぐ意図的指名を行う。
3 自分たちができるを考える。 ○ ゆずの手入れで草刈りが大変だから、まずは草むしりをしたい。草むしりは自分たちでできる。 ○ ゆずの収穫が大変だから、収穫の時にわたしたち以外に手伝いできる人を募集して、みんなで収穫できるといいな。 ○ 出荷できないゆづを使う使い道はを考えて、曳地さんに提案してみるのはどうかな。	18 (個別→一斉)	◆ 曜地さんの具体的な言葉に基づいて課題同士のつながりを考えることで、自分たちが今後向かっていく自分たちができるについて考えていくことができるようする。
4 本時の学習を振り返る。 ・ 友達の話を聞いて、曳地さんの苦労を聞いたからこそ、自分たちができることを考えられたんだなと思いました。	10 (個)	○ 今考えるべき課題と向き合って友達と話し合ったことで、今の自分たちにとってできることは何かについて、切実感をもつて考えることができるようする。 ◆ マトリックス表を使って、「すぐにできそうかどうか」「自分たちの力でできそうかどうか」という視点で整理し、自分ができることを明らかにし、見通しをもつて活動することができるようする。 ※ 今後自分たちができる考えることができる。 (発言・ノート) ○ 振り返りにおいて、今後自分たちができるについて考える基になったことや、友達と学ぶよさに気付いている子どもがいれば、全体に広めるようする。

(4) 板書計画

曳地さんの 写真	め 曳地さんの話を聞いて、これから何をすればよいかな。	ゆずの写真
	● ゆず作りの課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆず農家が少ない ・ゆず農家をつぐ人が少ない ・ゆず農家の高齢化 ・ゆずがあまり知られていない ・出荷できないゆずが多い ・ゆずがあまり出回っていない ・収かくに時間がかかる ・草かりに時間がかかる ・木がどんどん高くなっていく 	○ 自分たちがこれからできること	